謝辞

比良の山々に残る雪も次第に解け、琵琶湖に映る光が輝きを増すこの良き日、私たちはびわこ成蹊スポーツ大学を卒業し、新たな一歩を踏み出そうとしています。私たちの旅立ちの日にあたり、本日はこのような盛大なる式典を催していただき、誠にありがとうございます。また、お忙しい中、ご臨席賜りましたご来賓の皆様、学長をはじめ教職員の皆様方に、卒業生一同、心よりお礼申し上げます。

私たちは4年前、コロナウイルスの影響もあり、マスク着用での入学式を迎え、同じクラスの学生の素顔、表情が分からないままの大学生活が始まりました。授業においても、初めは遠隔の授業が多く、大学に通うことがあまりない1年間を過ごし、不安やつまらなさを抱える日々が続きました。ただ、遠隔授業が多い中、唯一、実技の時間は対面で開講されました。私は、友人が1人もいないまま大学生活が始まり、当初は友人がいないことへの不安感や羞恥心を感じていました。ですが、それを払拭してくれたのが「スポーツ」です。実技の時間を通して、他者とコミュニケーションをとったり、チームを組み活動したりすることで、人間の輪が徐々に広がり、私が抱いていた負の感情を払拭してくれたことを今でも覚えています。本学で最初に実感し、学んだことが、「スポーツは人間の輪を広げてくれる」というスポーツの意義や価値でした。以降は、少しずつ規制が緩和され、本来在るべき姿である「大学生」としての生活を送ることができました。大学に通って授業を受ける、友人と他愛もない話ができる時間の大切さを、より一層実感することができました。そんな充実した「スポーツ学生」としての4年間は長いようで短く、先生方の尽力があったからこそ様々な経験、学びを得ることができました。

私は、教員になることを夢に本学に入学し、教員としての資質を磨くことや教員採用試験の勉強に必死な4年間でした。授業には休まずに出席する、往復4時間の通学時間を活用し、授業の課題や採用試験の勉強をする日々でした。時には妥協をしたくなったりすることもありましたが、そんな私を支えてくれたのが、同じ志を持つ仲間の存在でした。

私が物事に行き詰まっていたり、悩んだりしていた時、いつも助言をくれたのは仲間の存在で、私を積極的な態度にさせてくれました。ありがとう。ほかにも、長きにわたり手厚く指導してくださった教職員の方々、実習先の先生方や生徒など、様々な人からの支えがあり、私事ではありますが、教員採用試験に合格することができました。感謝してもしきれません。この4年間では、様々な人に支えてもらっていることを強く実感しました。今度は、私たちが支える立場となっていきます。

人間力が強く求められる社会において、私から卒業生に伝えたいことがあります。それは「当たり前のことを当たり前にすること」です。この言葉は、私の出身高校の校訓であり、高校の頃から大切にしている言葉です。これから社会に一歩踏み出す私たちには、社会人としての行動が求められます。時間やルールを守る、挨拶をする、身なりを整えるなど、社会人として基本となる行動を徹底することで、他者からの信頼を得ることや自身の成功体験に繋がると思います。もちろん、今日まで支えてくださった方々に感謝の意を伝えることも当たり前のことです。今日一日、家族、教職員の方々、友人、沢山の方々に沢山の「ありがとう」で溢れる時間にしてください。

最後になりますが、学生生活において、未熟な私たちを多岐にわたってご指導してくださいました先生方、また様々な場面で学校生活を支えてくださった職員の皆様、大学卒業を迎えた今日まで支えてくれた家族に対し、この場をお借りして、心から感謝申し上げます。そして、びわこ成蹊スポーツ大学の一層の発展をお祈りするとともに、諸先生方の益々のご健康とご活躍を祈願いたしまして、謝辞とさせていただきます。

2025年3月21日

スポーツ学部　卒業生代表

林　泰輔